

# PHD LETTER

## 〈32〉

PEACE·HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT 1989・9

PHD運動とは1962年(昭和37年)より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事された岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年(昭和56年)からはじまりました。

発行：財団法人PHD協会

編集人：草 地 賢 一

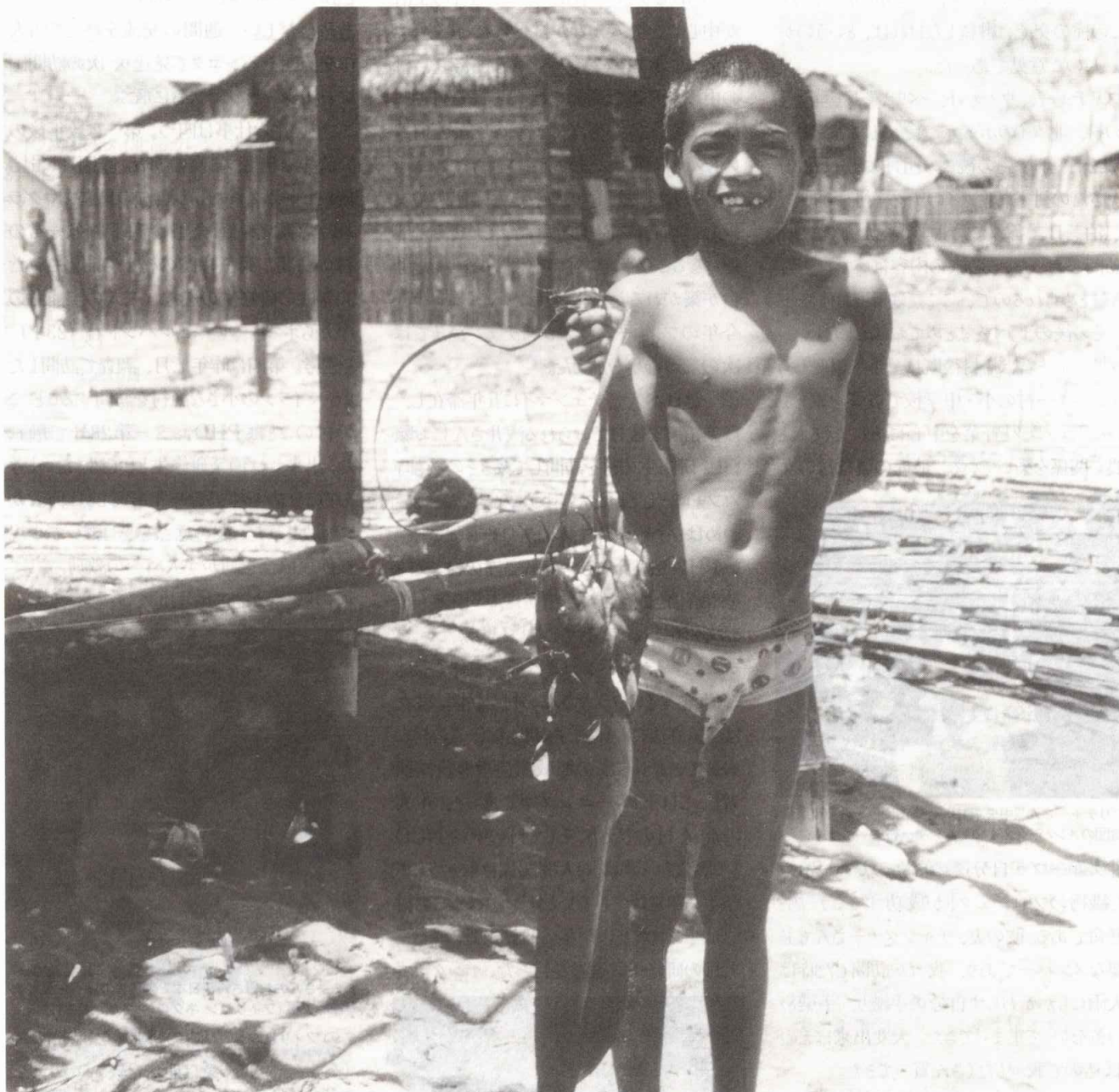
住所：〒650 神戸市中央区元町通5-4-3 元町アーバンライフ202  
TEL(078)351-4892 FAX(078)351-4867

郵便振替：神戸1-29688 財団法人ピー・エイチ・デー協会

定 価：100円

レイアウト：エフアンドエフ

- 誰のための開発—ネパールと丹波の共通項 ..... P3
- 今年もつながった、アジアの村と日本のマチと村 ..... P6



フィリピン・ネグロス島

焼けるような砂浜を歩いていたら  
少年が得意そうな顔でぶらさげている  
砂糖からエビへ  
魚がいなくなりつつあるネグロスの浜  
それだけにこの少年のうれしそうな顔が忘れられない

# 草の根の人々を訪ねて

— Report from Asia and South Pacific —

'89PHD 農業交流団は昨年引き続き農業専門家によって組織されタイを再訪した。今年は二人の農業改良普及員、水利専門家そして農業協同組合運動者と私、計五人のこぢんまりしたグループであった。この内二人は昨年引き続きの再訪、やはりこの種の交流は継続しなければ、というのが二人のご意見であった。

ブリチャー、ウイラット、ベリヤそしてコマ君の村、北タイのボクケオ、そしてムシキーに二泊三日、その後この四月に帰ったワラヤさんの村・東北タイのナクー村にも同じく二泊三日、各々に大変あたたかく忙しい訪問であった。この旅の内容はいずれ報告がまとめられるので、ここでは帰った研修生のその後のようすをまとめてお伝えしたい。

ブリチャー君は帰村後既に三年、相変わらずムシキー村の小・中学校で農業を教えている。コソコソと野菜を中心に訪れてくる人と良い関係を築いている。最近の彼は村の女



ブリチャーさん(中央 背中)の案内で畑をみる農業交流団のメンバー(タイ北部ムシキー村)

性グループが自分達の自立のために始めた織物のプロジェクトが成功するよう一生懸命である。彼の妻、チャンタナーさんも主要なメンバーであり、我々が訪問した時は大雨にもかかわらず自分の手織り、手染めの布をもって集まってきた。大変出来ばえのよいもので我々もたくさん買って来た。

ウイラット君はいつも黙々とまず自分の菜園を、自分のやっていることを皆が見てくれるようにとの不言実行型、交流団の野菜専門家が大変ほめておられた。交通事故の傷は治ったが、体に埋めている金属を取り出す手術は治療費が貯まり次第実施したいとの事。

ベリヤさんは看護学校を目指す第一段階

の高卒の資格をこの六月に得た。これから一年受験勉強にはげみ何とか入学資金を貯めたいと望んでいる。

目下の悩みは結婚後一年を経てもご主人とひんぱんに会えないこと。果して入学資金が貯められるかという不安。チェンマイの生活が中心になり、なかなか村へ入れない事。コマ君はご承知のダイナミックな性格で、村の中に協同組合運動を起こすことを目標に頑張っている。奥さんの実家の支援で中古のトラックを買い、またチェンマイやバンコクのキリスト教団体の支援を引き出し大規模なプロジェクトを作りたい様子。しかし拙速になることなくまず村の中にしっかりした土台が築かれるよう期待をしたい。

今年のフォローアップからチェンマイでは次の二つの事を加えた。

第一は日本人でチェンマイに五年滞在し、農業指導を続けておられる浅井さんをお願いし、研修生の村を訪問して戴きその後も時々フォローしていただくようになったこと。二つめはウイラット君に東北タイに同行してもらい PHD を媒介し、ワラヤさんの村と交流を開始したことである。

この評価は数年かけてしたいと思う。

チェンマイからバンコクに飛んで休む間もなく東北タイのワラヤさんの村を訪問、彼女は帰国直後に一休みする間もなく、この村に入っている NGO の地域開発指導員候補者として目下トレーニング中であつた。本人の希望、村の考え方、そして村の中の NGO との調整という複雑な人間関係は取りあえず今年一年を経てもみないと分からない。この村ではサンコム君の今年の研修を引き継ぐ三人目の研修生の選考を行った。ポングサイ

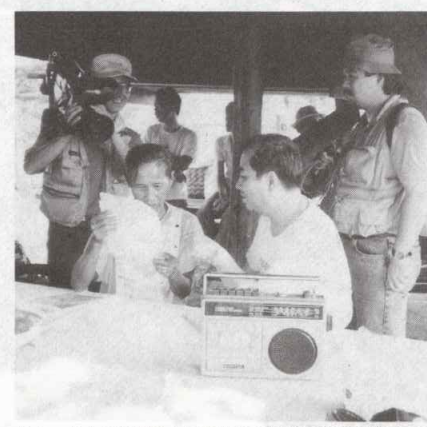


ワラヤさんの帰った村で田植を一緒に行なった。(タイ北部ナクー村)

さんという22歳の女性が選ばれた。フォローアップについては農業技術、人間関係などさまざまな要因が複雑に入り混じっている。今後もトライアンドエラーを繰り返しながら少しずつ方法論がまとめられるのであろう。ともかくコソコソ続けてみる事だ。

あわたたしい一週間の交流を終えて四人の交流団をバンコクで見送り、次の訪問国フィリピン・ネグロス島に飛ぶ。

ここでの主な仕事は四つ。第一は数年後の交流先を発見する為の調査。昨四月に引き続き東ネグロス州の漁村の自立プログラムの見学。第二は今年の研修生ドミー君の村の訪問。第三は彼の村から推薦された90年度の研修生の選考。二人の候補者の中からネストール・セルバンド君(23才)を選考。第四は昨年七月、調査で訪問したヒママイランの小さな漁村を訪問すること。この村のことは PHD レター第28号で触れた。出来れば漁業研修生として招きたいと考えていたフレッド君は昨年12月24日何者かに射殺された。彼の意志を受け継いで小規模漁民協会を動かす人々への激励、そして彼の墓参りが訪問の目的であった。なお、



ドミーさんのお母さんに日本での研修の様子を伝える草地総主事(フィリピン ネグロス オリガオ村)

このフィリピンでの僕の行動を24時間チャリティーテレビ、「愛は地球を救う」のテレビクルーがずっとカメラで追った。どのような内容になるのかは最終的には、ディレクターが編集されるのでよくわからない。

いずれにしても農業の専門家によるフォローと交流、また小さな NGO の働きの現場をドキュメントされたということ、これらが PHD のその後の成長に役立つよう願っている。

総主事/草地賢一

# 誰のための開発

## ネパールと丹波の共通項

渡辺省悟

PHD レター前号(31号)の増岡レポート“自立を損ねる海外援助”の要点は「ネパール」の貧しい村の開発に協力しようとする外国からの資金援助は、必ずしも村人たちのためにはなっていない。例えば、村人が仕事をしなくなってしまった。とか、日本人がやってくると「お前いくらもらったんだ」「いやもらっていない」と内部でケンカが起き、村人同士の相互不信の原因をつくる結果になる。海外協力や援助は農業生産高の変化や乳幼児死亡率の変化等だけでは評価され易いが、本当は人々の生活の営みや意欲、教育的視点こそ大切ではないか。村人の自立を損ねて何か援助か」といっている点にある。

増岡氏がネパールを訪れ、その話を聞いたビスタ君は PHD 研修生第一期生として、私の家で四ヶ月間生活を共にした青年である。ビスタ君の心中を察すると共に、「これは日本の問題だ」と直感した。

国を越えて村人の生活の営みと資本の間には同質の問題が横たわっている。かねてから我々の豊かさは第三世界の貧しさの上にあり、日本の工業・都市の繁栄は農業・農村の疲弊の上に成り立っているという思いが、私をしてアジアの人達に親近感を覚え、PHD 運動にかりたてる底力になっているのだが、ネパールにある同質の問題が、またまた日本の農山漁村で起り始めた。リゾート開発、中でもゴルフ場開発ブームがまさにそれだ。表向きは余暇の増加、地方の活性化なのだが、裏は金余り現象による土地の買い占め、ゴルフ会員権の値上がりを見込んだ投資、まさに「財テク」なのだ。

今、日本の世界に冠たる人工林はアジア等の外材輸入による材価の長期低迷で管理意欲が失われたまま荒廃の一途をたどっている。水田、中でも山間田では転作率の増加で捨て作りの「荒れ田」が増加しかつた。それに追いつちをかけているのが農村人口に占める高齢化率の高まりである。

そんな背景の中、リゾートが「地方の活性化」を大義名分に、農村へ進出する条件は十分過ぎるほど整っている。

私のむらもその例外ではない。丹波に近舞高速道が昨年開通した。ずい分と便利にもなった。それを機に丹波は格好のゴルフ場開発地として標的にされることになった。

兵庫県下で既にオープンしているゴルフ場は全国一の112、認可済工事中が55、その内半分に当たる29が丹波である。わか丹南町にオープンしているものは一つもないが同意済1、事前審査を待つもの4、の5つが具体的な話として浮上し、噂のあるものはまた2、3はある。ゴルフ場に必要面積は約150haであるから、いかに広大な土地が対象であるかがわかる。従って2-5集落にまたがるのが常である。

わか集落も二年前から不動産屋の標的にされ、開発志向の議員やむらの幹部が彼等に利用され、あたかも「むら活性化の切符」の如く錯覚し、不動産屋と共に行動してきた。山が高く売れ、賃借料も毎年入るから村の財源は潤い、むらに運動場などの公的施設が作ってもらえ、雇用の機会も増え、役場へは税金収入が、農協へは土地代金が入り、もって地域は活性化するという理由である。

そうした地元のメリットの上に週休二日制や日本人は働き過ぎなどを並べたてられると村人の8、9割は一度は賛成に傾く。「熟慮」まで至らない段階に村の対策委員をゴルフ場視察の名を借りて二度三度と料亭・温泉へ招待し、帰りにはみやげをもたせ、盆・正月には中元・歳暮が2、3個は届く、それと並行して地上げ屋が「アメとムチ」の手法で地権者やむらの幹部に迫る。九割近くまで話をまとめるのに時間はかからない。残る少数者へは、村の幹部を使つての村八分攻勢。こうして同意を得られた者には、年の瀬もおしつまった頃、協定書をかわし一時金を入れる。県の「同意」も、国土法の「認可」もおりていない段階での話である。

その協定書の中味は地上げペースの得手勝手な条文になっている。そこまでやって何人かが気がつき始め「一つの声」となってくる。私の集落も共有林の1/3がそんな

手法で協定されたあと、むら人達が不安がかりかけた。そしてゴルフ場開発に慎重な言動をしてきた私に総代(区長)のお鉢がまわってきたのが今年の一月初である。今、重苦しい雰囲気の中で部落自治を担当している。

調査研究を進める中でいくつかの整理を始めている。(1)賛成派は区域内にかなりの山がある人で手入れのできていない人、または地元以外の所有者で投資目的に数年前購入した人、更にゴルフ場導入が地域の活性化につながると思っている人。(2)反対派はふもとに人家及び田畑のある人で地下水汚染、交通量の増加、及び灌がい用水の不足、農業汚染など。(3)慎重派はオーナーの資質やゴルフ場経営の先行不安、案外少ない実入り収入、村人の「和」の崩壊、そして自立心の欠落、他力依存風潮の強まりへの警戒等である。今、こうした人達が入り乱れてわがむらは緊張した雰囲気が続いている。

ビスタ君のいう、「村人が仕事をしなくなった」と同質の話を、播州の区長から聞かされた。「二つのゴルフ場から入る収入で、部落会計は確かに潤っています。しかし昔のような奉仕精神は全く失われ、若い人も仕事をしなくなった。金はない方がマシですわ」と。自ら立つ気概や魂を失った「人」を快復させるのも、一度失われた「自然」を復元させるのもそれほど簡単なことではない。

この岐路に立って、ビスタ君ガンバレ、イヤ、お父さん頑張れだ。

## ブツブツ……

熱帯雨林を守ろうという声が高まっている。南の地域の森を切ることによって利益を得るごく一部のひと、消費する側、そしてその仲介をして儲ける人がいて、どんどん森が消えていく。森に住む人々の声、地球の環境を憂う人の声は届かない。日本はアジアの森を食いつぶしてきた。フィリピン、タイ、インドネシア、マレーシア、最後の標的はパプアニューギニアとさく。私達の毎日を見てみよう、おびただしい数の印刷物、読みもしないチラシ、割り箸、過剰包装、私達のこの日常的生活は、熱帯雨林の消失とつながっている。どいつつこのレターも紙だ。自ら筆をたれるべく、せめて再生紙にすることはできないかと、紙屋さんに尋ねてみた。「それあ、気持ちはわかりまっけど、そないな紙は流通量が少のうて、かえって高うつきまっせ」。貴重な浄財でこのレターを作っている以上、コスト減も大事なこと。せめてこのレターを多くの方で読んでいただくようお願いするのが私のできること。

# おつかれ様、ペディさん、ファイジンさん。

昨年8月から漁業研修を続けていた6期2班生のペディ、ファイジンの2人は1年間の研修をおえ、7月19日大阪空港よりスマトラにむけて出発しました。1年間、お世話いただいた皆さん、ご支援下さった全国の皆さん、本当にありがとうございました。

## 6期2班



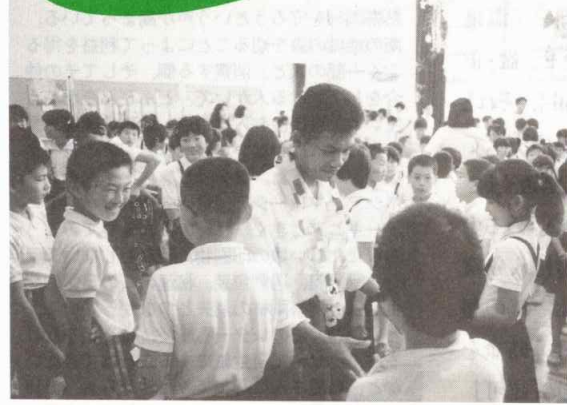
インドネシアの民族衣装の着付けを教えるペディさん。こんなことからアジアへの興味が湧いてくる。(兵庫県高砂市 荒井小学校)

### ペディさん

## ハスリヤダイ ありがとう ござりました

帰国直前に、「帰ったらどんなことをしたいですか?」と尋ねたら、笑いながら「そんなたくさんありますよ。」と悩むペディさんから、ムリやり聞き出した答はこうでした。「一番やりたいことは、グループを作ること。そのグループで網の作り方や、何をつくったらいいかを相談します。政府の組合があるから組合という形ではなくてグループという形になりますが、私はがんばって勉強して、きっとグループを作ります」と頼もしい返事。又、研修については「インドネシアでは、やらないことをたくさんやらせてもらってとてもおもしろかったです。そして日本の漁業は機械ばかり使っていますが私の国では機械はあまりないし高いです」日本についてどう思う?と聞くと、「ホストファミリー、ボランティアの人はみんなとても親切に教えてくれてうれしかったです。昔の日本はこわい国だったけど今はその反対の国になったと思います」1年間の研修を終え、自分たちの国に帰った彼ら。徐々に実を結ぶ経過を、私たちはその報告をたのしみしつつ待つことに致しましょう。

### ファイジンさん



七夕会に招かれ、インドネシアの星の話をしたファイジンさん。(兵庫県揖保川町 河内小学校)

## M. ファイジン ありがとう ござります

「村に帰ってグループを作りたいと思います。グループだとみんなでお金を出し合ったりして網を作ったりできます。でも色々な問題があります。例えば村の人がグループを作ると、いい顔をしない人たちがいます。自分たちのもうけがへるからです。それでも少しずつがんばってやっていきたいです」と言うのがファイジンさんの今後の抱負。最後にお世話になった人たちに、とメッセージをくれました。「勉強する時も、遊ぶ時もみんなとてもたくさんのお父さん、お母さん、兄弟ができました。とてもたのしかったです。ありがとうございました」



生まれたばかりの子豚に注射をするトニーさん(兵庫県篠山町東門農場)

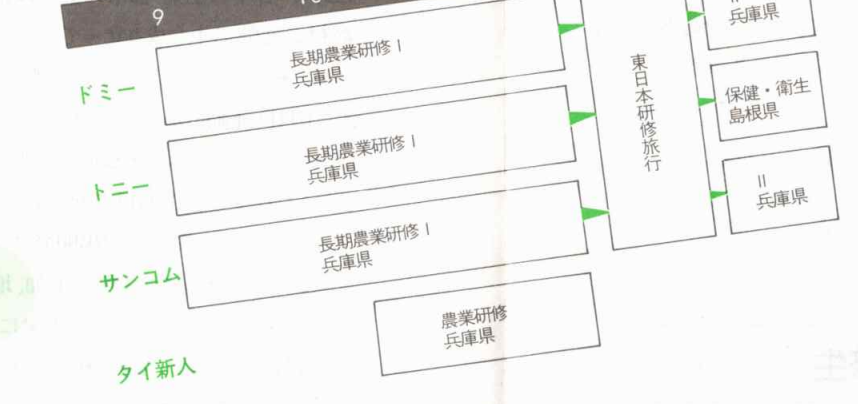
### トニーさん (バブア・ニューギニア)

トニーさんは人気者です。兵隊のときにニューギニアに入っていた方から、ホームステイ先を訪ねてこられることもしばしばです。また、研修地域の福崎町・田原小、南淡町・灘小、五色町・五色中、北淡町・富島小、丹南町・大山小などの生徒さんたちとも交流をしました。トニーさんは子供やお年寄りが大好き。お世話になった片田さんのお宅ではおばあちゃんが涙をうかべて別れを惜しんでくれました。でも、どうも彼はお酒の席は苦手なようです。初めて農業研修を引受けていただいた高山でも彼は引っぱりだこ。酪農、養鶏、肥育牛、野菜、果樹と高山の風土にあった農業や経営のあり方を学び、また休日には乗鞍岳で雪をみたり、銭湯も初の体験でした。農村ではイキイキしている彼は、町へくると少しペースが狂うようで、駅での待合わせ、交通機関の乗換えては、ヒヤヒヤすることがしばしばです。



初めて、農業研修を引受けていただいた高山では数軒の協力家庭にお世話になった。写真は乳のしぼり方を習うトニーさん(高山市・馬箱口宅)

## 研修生スケジュール



## トニー君が飛驒に 来た!

トニーさんがお世話になった高山の皆さんの声が届いています。  
トニー君にお逢いしたとたんに「コンニチワトニーです」という挨拶に安心しました。一生懸命日本語ばかりで話そうとされる態度に感心しました。お風呂を奨めたら

湯舟には入らないという事で、「ダイジョウブ、カブルダケ」と言われた割には長い入浴でした。ゆかたのひもも上手にむすんで「ワタシ、ダンナ」とニコニコでした。  
石原 正弘

トニー君を連れて乗鞍に行った。トニー君は雪の上に立ち、しばらく目を白黒させて呆然としていた。雪を手にするなり「ヒヤーツツメタイ」と大声を出すやら大

変だった。ソリヤスキーで遊び、楽しそうなトニー君の姿が今も思い出される  
野谷 久一  
サウナと一緒に行き、風呂から出てビールを飲んだのですが、「日本はおもしろい。汗をかいてまたビールを飲むのはおかしい」と言われ反省しました。秋に来た時、また、風呂に誘ってと言っていたのでまずは成功でした。  
門 義雄

# 研修生レポート

## 7期

### サンコムさん (タイ・東北部)

ひょうひょうとしたサンコムさん。トニーさん、ドミーさんたちが英語が達者でないため、こっちの説明することがどこまで伝わっているか不安でしたが、逆に日本語しか頼れないためドンドン上達しています。  
今年前半の研修では3人も兵庫県外での期間を設けましたが、彼は和歌山県南部川村に行きました。丁度、梅の収穫の最中で大いに汗を流しました。また、今年は農家ネットワークがさらに広がり、サンコムさんは兵庫県多可郡の若い農業者、森野さん、岸田さんのところで研修をしました。岸田さんは一人暮らし。きとところによると滞在中、サンコムさんが奥さん代わりに炊事に活躍に活躍したそうです。こういうタイプの男性が最近の若い娘さんに求められるのかもしれませんが、彼にはもう決まった人がタイで待ってます。残念でした。前半の研修で一番関心があったのは、やっぱりお米の研修とのこと。  
日本語の上達と共に詳しい説明もポツポツ理解できるようになり、これからが本番です。  
田中五郎宅(兵庫・波賀町)→ふえろう村(兵庫・小野市)→久保賢一宅(和歌山・南部川村)→青位真一郎宅(兵庫・八千代町)→森野英樹宅(兵庫・加美町)→岸田豊正宅(兵庫・中町)→但馬農業高校(兵庫・八鹿町)→八木貞夫宅(兵庫・豊岡市)→安達一博宅(同)→尾藤光宅(兵庫・日高町)→西田幸三宅(兵庫・養父町)→早田勝彦宅(同)→草の根生活塾→韓国比較研修



受入れ農家のネットワークも徐々に広がっている。今年初めて、研修生を指導して下さった、左から藤本さん、森野さん(加美町)、サンコムさん、岸田さん(中町)(兵庫県中町岸田さんの畑で)

### ドミーさん (フィリピン・ネグロス西州)

一年間の滞在のうちには、楽しいこと、しんどいこと、いろいろなことがあります。ドミーさんは兵庫県下の2か所での研修を終え、これも初の広島県北部への農業研修に出ましたが、2軒目のお宅で疲れと緊張から風邪をひいて寝込んでしまいました。そうしたらただ風邪にとどまらず、案じていたホームシックにもなってしまいました。見知らぬ土地で寝込んだら、ドミーさんじゃなくても心細くなります。  
丁度、この時期にお世話いただいた広島の田辺さん、三上さん、桑本さん、福崎さん、加古川の丸山さん、加美町の藤本さん、大変御心配をかけましたが、今はもうすっかり元気になりましたからご安心下さい。このときの遅れはこれからの長期研修で取戻します。土や家畜相手の農業だけでなくドミーさんの研修目的には鍛冶屋さんについて農具作りを覚えることもあります。広島・庄原市で、山手さんの指導をいただけたことが、大きな収穫でした。  
牛尾武博宅(兵庫・市川町)→ふえろう村(兵庫・小野市)→桑本昌和宅(広島・上野町)→三上博規宅・山手智宅(広島・庄原市)→田辺省三宅(広島・神石町)→丸山悦司宅(兵庫・加古川市)→藤本敏孝宅(兵庫・加美町)→一色作郎宅(兵庫・市島町)→三谷康宅(兵庫・黒田庄町)→草の根生活塾→韓国比較研修



研修の合い間に、地域の学校を訪ね、ネグロスの状況やドミーさんの研修の目的を話し、また得意のギターで一曲披露した。(広島県甲奴町 甲奴中学校)

# 今年もつながった、アジアの村と日本のマチとムラ

## ～第5回草の根生活塾～

夏の大好評プログラム、草の根生活塾(草生塾)が今年も多くの参加者、協力者を得て行われました。今回は充実のリーダー5人体制でのぞみ、23人の子供の参加者、第7期研修生、PHDに出入りするメンバー、地元の篠山町中央公民館、青年団仲間づくりの皆さん、後川の老人会の方々、後川小学校の子供たち、農家研修を引受けて下さった、瀬戸さん、石田さん、東門さん、溝口さん、渡辺さんのご家族の皆さん、大変お世話になりました。

綺麗な星空、綺麗な水、そして優しい人達に囲まれたら人の心まで綺麗になるのでしょうか。そんな気持ちになった5日間でした。今回は7月26日から30日まで多紀郡篠山町の“たんば農文塾”で行われました。草生塾の目的は①東南アジアの研修生の人達との交流を通じ、アジアに対する理解を深める②農家に滞在し、自分が食べているものがどのようにつくられているのかを体験しながら勉強する③農文塾で、水汲みやまき割りなどの生活を体験する。などがあります。子供達が一番喜んだのは、何といっても2泊3日の農作業体験です。初めは牛を怖がり、糞をかけられて半ベソで「はやく帰りたい」と言った子供達。優しい農家の人達に助けられて、一生懸命作業をする内に情が移って、最後には「帰るのいやや」と言い出して、中には子豚を抱いてVサインをする子までいて、まったく現金なものです。

そして最後の夜はキャンプファイヤーを地元後川小の子供達とも一緒に楽しみました。篠山青年団と我がPHDの演芸対抗戦あり、研修生の人達に踊りや歌を覚えてもらったり、ファイヤーの下、皆が心一つにして夜の更けるのを惜しみながら、延々と続きました。街の中ではできないような様々な体験をして、ちよっぴりアジアについての勉強もして草生塾は終わりました。『この5日間で何かを学んだ子供達は、初めてあった時よりも少し大人になったな』期間中すっかり子供に戻っていた僕にはそう見えました。



鶏をさばく手つきにみとれる子供たち。この肉はフィリピン・タイ料理となって、みんなのおなかに……

紙面では書ききれない事がもっともとあります。この拙ない文を読んで興味を持った貴方！草生塾が呼んでいます。来年は是非ご参加を！！

就職活動を投げうって  
リーダー／三原昭博(同志社大4回生)

### 参加者のレポートより



(小5・園子)

トマトがきらいだったけど、好きになりました。(小6・香織)

かわった料理でびっくりした。辛いものが多いけど、おいしいし、おなかもいっぱいになった。——研修生の手作り料理を食べた。(小6・真一)



子供たちは2泊3日5軒の農家のお世話になり、農業を体験しました。

「もっとこの家にいたい」と思いました。おじさん、おばさんの野菜に対する思いはすごいものでした。——農家にお世話になって。(中3・垂矢)

3人の研修生が日本で学んだことが、それぞれの国で役だつたらいいと思います。日本がいかかにせたいかよくわかった。反省。——研修生の出身地のスライドをみて。(中3・奈穂子)

(農家へはお箸を持参していったの)リーダーが割バシを使った。(小6・健一)

スーパーマーケットに売っているパックの肉が今日、世話をした牛なんだということがわかった。(小6・亮)

同じ人間なのに、満足に食べられなかったりしてむごいと思う。日本がそういうところにめいわくをかけていることもしりました。(小6・直人)

### フィリピンとタイから短期研修生

#### <フィリピン>

ネグロスからは、オルタートレード東ネグロス農村開発担当のエドガー・ファバンさんを10月末に招へいます。淡路島で行われる「市民とアジアをむすぶ国際フォーラム'89関西」にゲストとして参加し、また現在研修中のドミーさんが学ぶ現場を視察します。併せて東ネグロス州マンフォッド町長ピティッドさんも同行し、日本のNGOの活動の様子

を視察します。

#### <タイ>

6期生ワラヤさん、現在研修中のサンコムさんの出身地東北タイから、第3期の研修生を秋にむかえます。若い研修生の帰国後の活動をバックアップできる村の長老格の人を短期間招きます。既に決定していた人が都合が悪くなったため現在、現地でご人選中。

## PHD NEWS

### 会費・ご寄附寄託状況

1989年5月	119件	1,314,833円
6月	108件	2,415,204円
7月	211件	2,252,310円
計	438件	5,982,347円

以上の通り、多くの皆様より会費とご寄附を頂戴いたしました。ご協力いただき深く感謝申し上げます。

### 第4回 タイ・スタディツアー、お早くお申込みを

今年の年末もタイ北部カレンの村を訪ねます。3期生ブリチャーさん、4期生ベリアさん、ウィラットさん、5期生コマさんたちの元気な姿を、そして村での生活体験を。案内を用意していますので、ご請求下さい。

日程/89年12月24日(日)～90年1月2日(火)  
9泊10日  
費用/17万円前後  
募集数/15名(既に仮予約6名有)

### 第5回 グループポカラ手づくりバザール

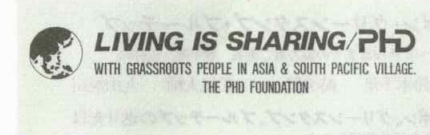
2期生ラダさんの姫路研修がきっかけで生まれたおばちゃん仲間「グループ・ポカラ」の恒例のバザールが今年も開かれます。お近くの方ぜひのぞいて下さい。  
とき/10月28日(土)・29日(日)  
ところ/姫路市東二階町「ぎやらい81」  
TEL(0792)24-5481

### PHDオリジナルトレーナー&Tシャツ

(Tシャツマーク)



(トレーナーマーク)



89年版Tシャツは完成が遅くなり、ご迷惑おかけしました。深く反省し、トレーナーはシーズン・

インとともに態勢を整えました。どうぞご愛用下さい。Tシャツも年間通してご注文下さい。

Tシャツ/白地に緑と赤のツートーンで左胸にマーク

サイズ/M・L ¥2,000

トレーナー/左胸にマーク

サイズ/M・L ¥3,500

色/紺、グレー、ワイン、モスグリーン

### 淡路島五色町文化祭 スマトラの民族音楽コンサート

PHD研修生を受入れていただいたご縁から淡路・五色町とインドネシア、西スマトラ州との間に交流が続いていますが、今年の文化祭に、ミナンカバウ文化の郷から3人の方を招き、催しを11月3日に五色町で行うことになり、現在、詳細を調整中。詳しくは下記へ。  
五色町役場内教育委員会 担当/勢造氏  
〒656-13 兵庫県津名郡五色町都志207  
TEL(07993)3-0160

### ヒューマンコミュニティみのお

箕面市企画部人権文化課とのタイアップで、国際理解のための行事を催します。アジア・パネル展、アジア料理教室、パネル・ディスカッションを予定。PHDの活動を実践する主婦、学校教師、学生の方々が自らの体験を語ります。お近くの方ぜひご参加を！  
とき/10月21日(土)  
ところ/箕面市メイプルホール  
お問合せ、お申込みは下記へ  
箕面市役所企画部人権文化課人権国際交流係 担当/埋橋、阿部  
TEL(0727)24-6768

### 市民フォーラム、プレイベント in 神戸

右の市民フォーラムのプレイベントが関西各地で行われますが、神戸では神戸YMCAが中心となって下記のラインナップで。  
11月2日(木) 18:30～  
●「韓国のうたとあそび」  
ゲスト/吳敬雲氏  
神戸YMCA国際文化センター3F  
●「タイのこどもたち一障害を生かして」  
ゲスト/プラボット氏  
神戸YMCA本館  
●「フィリピン農村では？」  
ゲスト/E.ファバン氏、ピティット氏  
神戸YMCA国際文化センター2F  
詳しくは神戸YMCA国際文化センター  
TEL(078)241-8801

### 研修生と出会って下さい '89東日本研修旅行

研修生の経験に加え、各地でご支援いただく皆さんにお目にかかるため実施する上記プログラムを只今、調整中。訪問、交流会を希望される方、至急ご連絡下さい。コースが決定しましたら対象地域の皆さんにはご案内いたします。

時期：89年11月中旬～12月上旬  
基本コース：(車で参ります)神戸～滋賀～東海地方～静岡～神奈川～東京～千葉～埼玉～山梨～長野～岐阜～北陸～神戸  
訪問者：第7期研修生3名、職員1～2名  
プログラム：研修生の話し、現地のスライドを使っての交流会、研修生に役立つ見学、宿泊等お願いします。  
お問合せは 担当 中尾まで

### 第3回NGO大学 「第三世界の貧困と日本の貧困」

今年で3回目となるNGO大学は9月2、3日より開講。部分参加も可(1回当り4000円+泊・食費)。各回40名で締切り。

### 第2回 9/30、10/1「食」と「農」からみえるもの

講師：保田 茂 ルーテル能勢研修センター  
第3回 10/21、22 なぜ今、外国人労働者問題なのか  
講師：小柳伸顕 YMCA六甲研修センター  
第4回 12/2、3 アジアと女性の解放  
講師：松田瑞穂 神戸学生青年センター  
第5回 1/20、21 援助・国際協力を考える  
講師：村井吉敬 神戸学生青年センター  
第6回 2/11、12 NGOの現状と今後の方向  
講師：NGO関係者 関西セミナーハウス  
お問合せ、お申込みは下記へ  
関西国際協力協議会 担当/原田  
〒530 大阪市北区堂島1-5-17 YMCA国際・社会奉仕センター内  
TEL(06)344-1717

### 第7回国際フォーラム 第三世界の民衆の自立と日本の役割

今年の国際フォーラムは下記の要領で行われます。先着150人まで。入場無料。  
とき/10月28日(土)14:00～17:00  
ところ/大阪国際交流センター  
内容/基調講演：村井吉敬氏  
パネルディスカッション：S. S. ラムテーケ氏(インド)、E. ファバン氏(フィリピン)、大島賢三氏(外務省)、村上公彦氏(アジア協会アジア友の会)、草地賢一氏(PHD協会)、村井吉敬氏。

※幕間にフィリピン民衆演劇協会 (PETA) のメンバーによるパフォーマンス

お問合せ・お申込みは下記へ  
民衆フォーラム実行委員会

〒543 大阪市天王寺区上本町8-2-6

大阪国際交流センター内 国際文化交流協会内

TEL (06) 773-0256

市民とアジアをむすぶ国際フォーラム'89関西

都市型人間の頭でっかちの勉強会でないフォ

ーラムが、11月に兵庫県の淡路島で開かれます。このフォーラムは、これまで色々な活動してきた人も、してこなかった人も、色々な人々が出会い、語り合っ、アジアを通して、そして地元淡路島在住の人々との交流を通して、日本と日本人が浮きぼりになるような“場”にしようというものです。また2日目の分科会は、淡路各市町に出かけ、約20のテーマや文化にふれ合います。

例えば、「共に生きられるか、人と自然」というテーマで、淡路島モンキーセンターで、環境問題について語り合います。その他「村おこしと地域レ

ベルの国際交流」、「わくわく体験インドネシア」などなど。

日程/11月3～5日

会場/国立淡路青年の家ほか淡路島各市町  
参加費/1万円

問い合わせ先 市民とアジアをむすぶ国際フォーラム'89関西実行委員会

〒543 大阪市天王寺区上本町8-2-6

大阪国際交流センター2階

大阪国際交流団体協議会内

TEL (06) 773-0256



## 編/集/後/記

神戸に来て1年半。田舎から出てきてまだ右も左も分からない頃、無理遣り PHD にひきずりこまれ、今ではすっかり……

ついこの間は、毎年恒例になっている草生塾に行っていました。“農文塾に来る子供達は、おとなしい子供ばかりやから心配ないって”そう言って励ましてくれた人達、どうもありがとう。その時、残りの4日間がどれ程長く感じられたことか。けれど今、あの5日間を振り返って見て、自分自身無

我夢中で子供に接している中で自然と自分も子供に戻っているんです。で、その瞬間めっちゃくちゃ楽しいんですよ。実際、子供達が5日間どういふことを感じたのかは分からないけれど、知らない家で一生懸命働いたこと、自分が使ったおはしを大切に思ったこと、違う文化を持った人達の話聞いたこと、キャンプファイヤーで皆が一体になれたこと、何らかの形で子供達に伝わっていると信じています。私がそうだったように……これも、PHDを通して体験した一つであり、例えば他に、アジアの経

済についての勉強をする人達が居て、資金集めの為のバザーを手伝ってくれる人達が居て、研修生達と話をしにくる人達が居て、その研修生を預かっているホームステイ先の人達が居て、色々な分野から色々な角度から色々な人が PHD を見つめて、何かを探し出そうとしています。そんな憩いの場へ行くことが、とっても今楽しい私です。

(みき)

レター32号編集メンバー

赤松恵美子 得原 輝美  
鍛冶奈津子 川那辺裕子

柿原登志夫  
中島 千絵  
(五十音順)

新規会員・寄付者ご芳名は、  
個人情報保護のため掲載しておりません。